

長野県 公連協だより

第 144 号

発行所

長野県公民館運営協議会
長野市大字南長野字幅下 692-2
県庁東庁舎内
電話 (026)232-0111
(内線 4849)

第六十八回長野県公民館大会

初めてのオンライン開催



実行委員長

諒訪地方公民館連絡協議会長

諒訪市公民館長 小泉良文

オンラインで結び、開会式、全体会
(講演会、分散会)、閉会式を行いました。

第六十八回長野県公民館大会が九月二十四日(木)に開催されました。今年は、四月当初から新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、開催そのものが危ぶまれましたが、折から普及しつつあったオンラインミーティングを活用しての開催に至りました。大会は、岡谷市カノラホールを基地局として、県内の参加希望公民館をオン

オンラインミーティングの特徴を最大限に生かした講演会と分散会では、秋田大学の原義彦先生に、「コロナ共生社会の公民館」についてお話をいただきました。今コロナ禍の中で改めて意識しなければならない、公民館が本来持つ役割と機能のお話がありました。学習支援、そして住民自治や地域づくりを支援することの中で、公民館は地域住民の皆さんとの良好な関係づくりができるか、という重要な根本的な問いかけをい



例年と異なる開会式の様子

ただいた気がします。
大会宣言においても、公民館活動の原点に立ち返り、あるべき姿や活動の価値を見つめ直すとともに、学習や地域づくりの支援を継続することが宣言されました。
次回開催地は大北公民館運営協議会様です。交流することの重要性に変わりはなく、どのような形であれ、次回も皆さんのが「集う」ことができるよう祈念しています。
終わりに、例年とは異なる開催となりましたが、ご協力いただき、関わってくださったすべての皆様に深く感謝を申し上げます。ありがとうございました。



安曇野市三郷公民館での公民館基礎講座

お知らせします

「地域づくり
～なぜ地域の担い手が必要なのか～」

長野県生涯学習推進センター
公民館支援専門員 筒井美保子

今、大切なのは地域づくり、地域での担い手を育てることです。自助・共助・公助が言われていますが、災害時はまず自分の命を守ること「自助」が大事で、次の段階が家族、隣人、地域での助け合い「共助」です。さらに「公助」は行政ですが、今求められているのは共助である地域の絆です。
長野県は、地域の拠点として公民館があり、地域づくりを担っているところが多いと思います。

令和2年10月31日

県 公 運 協 よ だ

今回は、長野県公民館運営協議会と合同開催で、地域の担い手を育てるために、各地の地域活動に学ぶ講座を開催します。館長・主事の皆様方必見です。

今年度は、新型コロナウイルスにより日程が大幅に変わってしましました。次の日程で行いますので、是非ご参加願います。また感染拡大状況により、今後も変更の可能性がありますので、ホームページをご覧になって申し込みをお願いいたします。

「地域づくり推進研修」「地域づくりの支え手入門講座」

第1回 「講座オリエンテーションと講義」

期日 10月27日（火）
会場 塩尻市市民交流センター

第2回 現地研修「学びと自治」

期日 11月9日（月）
会場 阿智村中央公民館等

第3回 現地研修「福祉のまちづくり」

期日 11月30日（月）
会場 長野市中条音楽堂

第4回 現地研修「中心市街地のまちづくり」

<p>★館報関係者研修会</p> <p>期日..令和3年1月30日（土） 場所..木曽町文化交流センター 内容..分科会</p>	<p>★主事研修会</p> <p>期日..12月15日（火） 場所..長野県生涯学習センター 内容..分散会</p>	<p>★第42回全国公民館研修会・第60回関東甲信越静公民館研究大会</p> <p>期日..11月19日（木） 内容..全大会・基調講演 ※Y o u T u b eにて配信</p>	<p>★第42回全国公民館研修会・第60回関東甲信越静公民館研究大会</p> <p>期日..11月19日（木） 内容..全大会・基調講演 ※Y o u T u b eにて配信</p>	<p>【第三地区まちづくり協議会、松本市第三地区公民館】 公民館講座からはじまり、大型ショッピングモールの再開発をきっかけとした住民主体のまちづくり活動。</p> <p>【明日の東野をつくる集い、飯田市東野公民館】 大学との共同研究をきっかけとした地区基本構想実現のための取組。</p>	<p>【みんなのしおだ食堂】 運営委員会、上田市塩田公民館 公民館を拠点として立ち上げた「こども食堂」による多世代コミュニティ活動。</p>	<p>【宗賀地区地域振興協議会、塩尻市宗賀公民館】 小学校の旧学有林を地域の里山として十年後を見据えて再生させるための「どんぐりプロジェクト♪」。</p>
---------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------------------------------------

県教委から

期日 12月14日（月） 会場 松本市第三地区公民館等
期日 令和3年1月18日（月） 会場 上田市塩田公民館等

令和二年度「公民館活動アワード・フォーラム」の開催について

本年度で第二回となる「公民館活動アワード・フォーラム」の実施要領を十月中旬に各公民館に通知します。県内多くの公民館の応募を期待しております。令和元年度は、五つの活動が表彰されました。

今後の主な予定

コロナ禍により、中止や延期を余儀なくされている2020年度。今後も変更の可能性はありますが、主要事業をお知らせします。

本年度で第二回となる「公民館活動アワード・フォーラム」の実施要領を十月中旬に各公民館に通知します。県内多くの公民館の応募を期待しております。令和元年度は、五つの活動が表彰されました。

これらの、事例につきましては、本年度になつて長野県生涯学習推進センターホームページのサイトマップの中の「生涯学習情報」に、活動内容や活動に携わった方々の想いが動画などを使いながら詳しく紹介されていますのでご覧になつてみてください。

令和二年度は、長野県生涯学習推進センターによる「地域づくりの支え手入門講座」全六回講座の第六回目（二月初旬）に、「表彰式・フォーラム」を長野県生涯学習推進センターにて開催する予定です。本年度も地域づくりにつながる様々な優良事例が集まり、お互いが学び合える機会にしていきたいと考えています。

【池田つむぐプロジェクト、池田町公民館】 若者有志からスタートした、町の未来づくりのための「民学産官」連携プロジェクト。

どれも地域づくりにつながる日頃からの公民館活動の大変優れた事例でした。しかし、令和二年二月二十八日に開催予定でした「表彰式・フォーラム」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となつてしましました。

これら、事例につきましては、本年度になつて長野県生涯学習推進センターホームページのサイトマップの中の「生涯学習情報」に、活動内容や活動に携わった方々の想いが動画などを使いながら詳しく紹介されていますのでご覧になつてみてください。

令和二年度は、長野県生涯学習推進センターによる「地域づくりの支え手入門講座」全六回講座の第六回目（二月初旬）に、「表彰式・フォーラム」を長野県生涯学習推進センターにて開催する予定です。本年度も地域づくりにつながる様々な優良事例が集まり、お互いが学び合える機会にしていきたいと考えています。

**（文化財・生涯学習課
主任指導主事 後藤卓己）**

リレー
コラム

「長野県らしい
公民館とは?」
⑪

伝統を引き継ぎ
次世代へ

小布施町公民館

館長 堀込明紀

公民館の音楽室から久々に「琴」の音色が聞こえてくる。江戸時代小布施村の豪商、高井鴻山が活文禪師から教えを受け小布施に伝えられた「一絃琴」の清澄の音である。幕末に全国に広がり愛好されてきたが、明治中期ごろより次第に衰えて絶滅寸前の状態であった。実は百余年の間眠っていた「一絃琴」を、逢瀬琴の会（一絃琴保存会）が昭和六十三年に復活させたのである。その後、高齢化が進み中心的指導者が亡くなり、指導できる方が二人。小布施の伝統芸能の伝承が空前の灯火となってしまった。



初心者の部の練習風景

公民館の音楽室から久々に「琴」の音色が聞こえてくる。江戸時代小布施村の豪商、高井鴻山が活文禪師から教えを受け小布施に伝えられた「一絃琴」の清澄の音である。幕末に全国に広がり愛好されてきたが、明治中期ごろより次第に衰えて絶滅寸前の状態であった。実は百余年の間眠っていた「一絃琴」を、逢瀬琴の会（一絃琴保存会）が昭和六十三年に復活させたのである。その後、高齢化が進み中心的指導者が亡くなり、指導できる方が二人。小布施の伝統芸能の伝承が空前の灯火となってしまった。

まだ、小布施には殿様菊と親しまれている「北斎巴錦」の栽培がある。絶やしてはならない。

少なからず各地域にも次世代へ引き継いでいかなければならない大切な伝統芸能やものがある。公民館がどう関わるかは住民の皆さんと考え合っていかなければならぬが……。

いっている。「いろいろな曲が弾じられるようになつたから、皆で演奏できるよ」とコロナ禍で中止になった芸能祭の代わりに行うウェブ公開に快諾をいただいた。演奏技術が向上し、この中から指導者として受け継ぐ方が出ると確信している。

「笑い時々、真面目」「学び多く、楽しかった」

郡市合同主事研修

（下伊那郡・飯田市）

松川町中央公民館

主事 大澤達也

暑さも日増しに強くなる七月末日、下伊那郡町村館と飯田市各館との合同主事研修が開催されました。これは毎年恒例事業として行っているものであり、規模でいうと、下伊那郡町村十三館、飯田市公民館二十一館、合計三十四館からなる大きな研修です。

この研修、ここ数年で変化がみられているように感じます。それは「主事同士の親密度が上がり、研修中の話題が尽きないのはもちろん、駄話もとても盛り上がっています。

このような背景があつたからこそ、個人としてもより交流が深くなるように努めてきました。そして、周りの主事さん方のおかげで、これが今花開いたと実感しています。



良い雰囲気で、発表者も実力発揮できる

ブロックニュース

南信

市の主事と話をすることはほとんどなく、話しても仕事上の会話のみ。また、当時の先輩方もそこまで仲良く話をしている姿を見なかつたので、「郡市主事研修、つまらんから行きたくない!」なんて思つたこともあります。

私が主事になりたての頃、飯田文化の町小布施としては、途絶えさせてはいけないと、二年前に話し合い「一絃琴初心者教室」を開催。今では毎週木曜日の午前・初心者の部、午後・経験者の部と町内外から練習にお集まりいただ

文化教育においても、仲間を増やすことはとても重要な事項です。それを実感でき、良い経験ができたと考えています。

社会教育においても、仲間を増やすことはとても重要な事項です。それを実感でき、良い経験ができると感じています。

次は上伊那郡、そして南信全体、ひいては県全体までこの流れを広げていきたいのですね。

「ここ」に生きる

わいわい塾

上田市上野が丘公民館

主事 北原 敦

当館主要事業の一つに、「夏休み上野が丘わいわい塾」があります。

当事業は、平成二十四年度から始まり、毎年小学校の夏休み期間中の四日間開催しています。昨年は、五十七人の小学生が参加し、八十人を超えるボランティアの皆さんに協力いただきました。

ボランティアの方々とアイデアを出し合い内容を組み立てており、

サバイバル飯焼き（空き缶を使っての飯焼き）などの野外体験、運動遊び、工作、おやつ作りなどがあり、学習の時間も設けています。

「わいわい塾」を経験した中学・

高校生もボランティアとして参加してくれたり、参加したボランティアの方々の有志が、公民館隣にある神科小学校の学校支援ボランティア「おたすけっ十有志隊」を立ち上げ、休み時間の遊びの場づくり、

学校行事への支援などを行っていきます。このように、「わいわい塾」からボランティアの輪が広がっています。



サバイバル飯焼きの様子

開田子どもはつらつ クラブに関わって

木曽町開田公民館

主事 小林 穂

木曽町開田公民館では、「開田子どもはつらつクラブ」という事業を毎年行っています。十五年ほどになります。この事業は年に数回、開田地域の中学生以下の子供を対象に、郷土料理体験教室や地域のイベントに合わせた企画などに参加しています。これにより子供達が、地域の方々と様々な行事で関わり、地域に関心を持つことにより、郷土愛を育むことを目的としています。

昨年私は公民館勤務一年目でしたが、多世代のボランティア各々が持ち味を活かし、子どもたちと関わる姿が印象に残っています。

今年度は、新型コロナウイルス感染予防のため、屋外で行う「ふるさと再発見～民話の舞台を訪ねて～」という学習形式の企画を考えました。今回は学校の夏休みを利用して、開田地域に伝わる数多くの民話の中から、五つを選んで現地に行き、民話に登場する石造物などを見て回りました。普段より参加者は少なかつたですが、参加した子供達は探検気分で楽しんでいた様子で何よりでした。また、

地域内にも関わらず、「行ったことのない場所に行けて良かった。」という感想をもらい、人口千五百人の開田地域ですが、子供にとってはとても大きな世界に見えているのではないかと感じました。

子供に限らず、様々な方が参加する公民館事業において、人それぞれ異なる考え方や物の見方があるということを再認識し、今後も幅広い公民館活動に心掛けていきたいと思った主事一年目のこの頃です。



「弁財天の大岩」を見上げる参加者